

介護保険制度の改善を求める緊急要請署名を呼びかけます

政府がめざす介護保険制度改革

ねらいは？

「給付削減」と「負担増」

「社会保障制度改革推進法」の下で、医療、介護、年金、保育、生活保護の各分野で国民の命と生活にかかわる負担増と給付・サービス削減の動きが加速しています。

介護分野においても、利用料の値上げや軽度者の切り捨てがすすめられており、利用者、事業者をはじめ介護現場で働く人にもさまざまな影響を及ぼすものです。

中央社保協は、社保協に加盟する関係団体や労働組合とともに、「介護保険制度の改善を求める緊急署名」を、以下の3点の確認の下、取り組むこととしました。



「緊急署名」を幅広く進め、介護現場の実態と声を大いに知らせていきましょう

〈これからの取り組み〉

- ① 社会保障を解体する大元である「社会保障制度改革推進法」廃止署名を推進する
- ② 7月末集約を目標に、参議院選挙で介護問題を争点に押し上げる
- ③ 来春の通常国会を展望して継続的な運動として取り組む

緊急署名の要請項目の内容について

1 保険料、利用料などの費用負担を軽減すること

2012年4月の報酬改定後、介護保険料は、全国平均で4,972円になっています。国民年金は月平均4.7万円なので、1割以上が介護保険料です。年金も減らされ、生活全体が厳しくなっている中で、利用料が負担になり、必要なサービスを利用できない人も増えています。

特に、所得の低い人や、介護度が高くサービス利用の度合いが高い人を中心に、必要なサービスを受けにくい状況になっています。

利用者の費用負担の軽減は緊急の課題です。

